

各 位

会 社 名 株式会社 アズ ジェント
 代 表 者 名 代表取締役社長 杉本 隆洋
 (JASDAQ・コード 4288)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 常務取締役 鈴木 眞冶
 電 話 03 - 5643 - 2581

特別損失の発生、平成 19 年 3 月期通期 (連結・単独) 業績予想
 の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期通期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)において、保守的な資産評価の結果、以下の特別損失が発生することとなりましたので、お知らせ致します。また、平成 19 年 3 月期通期の業績予想について、平成 18 年 11 月 10 日付当社「平成 19 年 3 月期中間決算短信(連結)」及び「平成 19 年 3 月期個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を以下のとおり修正いたします。

1. 特別損失の発生に関して

(1) 連結にのみ影響を与えるもの

項目	今回修正 (A)	中間時修正 (B)	今期計 (A + B)
減損損失	3 百万円	-	3 百万円

(2) 連結及び単独に影響を与えるもの

項目	今回修正 (A)	中間時修正 (B)	今期計 (A + B)
ソフトウェア評価損	28 百万円	10 百万円	38 百万円

(3) 単独にのみ影響を与えるもの

項目	今回修正 (A)	中間時修正 (B)	今期計 (A + B)
関係会社株式評価損	35 百万円	106 百万円	141 百万円
関係会社短期貸付金貸倒損失	9 百万円	-	9 百万円

2. 発生理由

減損損失

当期末において、在外子会社である Asgent Technology(Beijing)CO., LTD が保有する固定資産に減損の兆候が見られ、減損損失の測定を行った結果、当該資産が生成する将来キャッシュフローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能価額はないものとして減損損失を計上致しました。

ソフトウェア評価損

当社は新規事業のひとつとして、セキュリティ・ポリシー策定・運用支援ツール「M@gicPolicy」シリーズを自社開発しております。当社では当該シリーズの早期収益貢献を目的として、市場から得たニーズを柔軟に反映させるべく、バージョンアップを継続的に重ねております。当該開発の継続的实施によって、旧バージョンの資産価値に一定程度の減少が見られると判断し、評価損を計上することと致しました。

関係会社株式評価損

当社は中国で拡大が見込まれる SIP 関連商品の販売を行うことを主目的として、平成 16 年 3 月に現地子会社、Asgent Technology(Beijing)CO., LTD を設立し、関連商品の拡販及び普及に尽力して参りましたが、中国市場の立ち上がりが遅れ、同社は販売管理費の先行による損失が継続的に発生している状況にあります。

中間期に当社が保有する Asgent Technology(Beijing)CO., LTD の株式について、相応の減損処理を行いましたが、当期末においても更に厳しく行うことと致しました。

関係会社短期貸付金貸倒損失

当社は Asgent Technology(Beijing)CO., LTD に対し、財務支援を主な目的とした短期資金の貸付を行って参りましたが、上述 の理由等から、同社の資金状況が悪化し、当期末時点において財務状態の回復を見込むことが困難となったため、当該貸付金に貸倒処理を行うことと致しました。

3. 平成 19 年 3 月期 通期業績予想の修正

(1) 連結 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,510	35	10
今回修正 (B)	3,390	187	420
増減額 (B - A)	120	222	430
増 減 率	3.4 %	- %	- %
(ご参考) 前年同期実績 (平成 18 年 3 月期通期)	3,298	48	154

(2) 単独 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,500	100	30
今回修正 (B)	3,385	91	470
増減額 (B - A)	115	191	440
増 減 率	3.3 %	- %	- %
(ご参考) 前年同期実績 (平成 18 年 3 月期通期)	3,297	37	69

(3) 修正理由

売上高は第 4 四半期において期待された水準に達しなかったことにより、連結、単独ともに対前回予想比 3% 程度の減少となる予想です。経常利益は売上高の減少による売上総利益が減少したこと、および販売管理費が増加したことを主要因として、連結 187 万円 (対前回予想比 - %)、単独 91 百万円 (対前回予想比 - %) となる見込みとなりました。

また、上述した特別損失の計上に加えて、繰延税金資産の評価をより保守的に行い、190 百万円程度の取り崩しを行った結果、連結純利益は 420 百万円 (同 - %)、単独純利益については、470 百万円 (同 - %) となる見通しとなりました。

なお、平成 20 年 3 月期の業績予想は、上述の特別損失や繰延税金資産の取り崩し等により、将来のマイナス要因が排除されたこと、および、商流変更や新規事業の立ち上がりにより収益力の回復が見込まれることから、増収増益及び黒字化を見通しておりますが、具体的な数値については、平成 19 年 5 月 11 日の決算発表にて開示させていただきます。

以 上